

(11) 佐牙神社現地銘文調査報告

52.1×192.7 頭縁巾 6.9 縁厚 3.2

竹中 友里代

嘉永三年庚戌十有一月吉辰

多賀玉舟、同梅村、泊里梅丸、寺田文七、佐山専枝、江津甚山、高木柳  
支、水取南嶺、江津富貴ほか六十句に

調査日：平成二六年十二月十五日

調査者：京都府立大学准教授

東 昇

同

特任講師

竹中 友里代

京田辺市教育委員会

松本 勇介

佐牙神社総代

林 善嗣(敬称略)

一 拝殿絵馬・扁額等銘文

① 絵馬 伊勢参り図 75.2×105.5 頭縁巾 5.4 縁厚 3.9

「奉掛御宝前 □□長筆(印)

天明九歳己丑正月吉辰 江津村郷中」

☆天明九年＝一七八九年

④ 相撲番付額 119.0×76.4 頭縁巾 6.5 縁厚 4.0  
縁 「奉納」「明治廿一年十一月十六日晴天一日相撲」  
「川島平右衛門敬白」

☆明治二十一年＝一八八八年

⑤ 絵馬 源平合戦図 120.0×165.8 頭縁巾 7.0 縁厚 4.5

「奉納御宝前 平安村上真寮

諸願成就皆令満足

寛政九年丁口 吉日 池田山本村」

☆ 寛政九年＝一七九七年

② 絵馬 騎馬武者図 165.8×121.2 頭縁巾 10.5 縁厚 6.5

「雨請願成就

皇都□□□

□□□□(九戌か)九月」

☆九年戊＝天保九年か(＝一八三八年)

⑥ 神輿台

上部横木(台部)長さ 210.3 高さ 89.8 脚部一股下部開き巾 56.5

上部横木(台部)裏

一 神主 山本村善三郎

奉寄進

③ 扁額 奉納御廣前四季発句集

江津 喜六

「 寛文十二壬子年 」

奉寄進 觀音御 「 」

二 境内石灯籠等石造物 銘文

十一月吉祥日 十三人□敬白  
☆ 寛文十二年 || 一六七二年

①石灯籠 (参道入口、石鳥居前)

(右)

表 「奉燈佐牙社」 裏 「寛政十戊午年八月」

側面 「願主池田庄山本村」

(左)

表 「奉燈佐牙社」 裏 「寛政十戊午年八月」

右側面 「願主池田庄江津村」

左側面 「木原孫右衛門、今中源十良、川島政右衛門」

☆ 寛政十年 || 一七九八年

②社名石標

表 「式内佐牙神社」 裏 「大正元年十月建之」

左側面 「三山木村宇宮津鎮座」

☆ 大正元年 || 一九一二年

③石灯籠 (参道石階途中左)

「世話人小西次太夫」

④石灯籠 (手洗横)

⑤石灯籠 (参道石段上左右)

(右) 表 「天神宮」 裏 「明和六己丑龍集十一月吉日」

(左) 表 「吉田大明神」 裏 「明和六己丑龍集十一月吉日」

☆ 明和六年 || 一七六九年

⑥石灯籠 (境内地左へ三山木廃寺方向への道)

(右) 「 享保十七年 」 小右衛門

天満宮 講中

今中 六右衛門

子正月吉日

林 善右衛門

(左) 「□雨奉」

☆ 享保十七年 || 一七三二年

⑦石灯籠 一対 左右銘文同文 (恵日寺平面地)

表 「奉燈 氏子安全」

側面 「万延元年庚申五月」

裏 「願主山村木村宗七 京都伏見屋太吉」

☆万延元年＝一八六〇年

### 三 境内神輿藏内

①神輿鏡 各4面（神輿四方に飾る鏡）

「辛寛文十一歳

山城國江津村

上菱屋弥兵衛

亥九月吉辰

「辛寛文十一歳

山城國江津村

森理右衛門

亥九月吉辰

☆寛文十一年＝一六七一年

### ②神輿瓔珞

「山城國山本村」

③木箱 神輿鏡・瓔珞などを収納

蓋表「佐牙神社幕箱」 箱身側面 「大正五年十月新調」

☆大正五年＝一九一六年

### 四 佐牙神社祭礼用木箱等銘文（山本村）

#### 【木箱①】

（蓋表墨書）

「盛相

引盆」

（蓋裏墨書）

「養子  
婚姻  
振舞仕方之事

一昼夜飯後十八人呼

赤飯 盛相 但し三合五勺入紙を敷く

しるしものを付て出すへし

酒 □ 引盆 二而一 壱盆宛 盛切なり

盃 初獻 四ツ目 看

したし物  
醤油牛蒡

引  
あとも  
出し置へし

同 式献 三ツ目 同

かます式切ツ、引落し  
但しなます二而も出すへし

同 三献 汁椀

たこ  
かまぼこ  
式切ツ、引落し  
但し壹分五厘迄  
式分位まで

若したこ無之候ハ、

有合之肴ニ而も苦しい苦しからず

万端右ニ準し隨分手軽ニ致へし

一夕飯後村中男呼  
以上

赤飯盛相 但し式合五勺入

酒盃右ニ同事 着同事 但し十八人呼方者 少々手軽ニ致へし

以上

一四ツ時分村中女呼 但し婚礼事也

赤飯盛相 但し式合入 尤子供盛相壹合入

酒盃 同事 着 初獻 したし物

牛 莳

式獻

引落し かます式切

(箱身側面墨書)  
「引盃」

山本村中 惣中 一

三獻 數之子 引落し

山本村中 式拾人前

但し女衆ハ酒ハ随意ニ  
いたすへし

以上

盛相

五組

一

右之通大小家無差別振舞いたすへし  
但し中分以上ハ持高壹石ニ付銀五分ツ、出銀可有之事

(異筆)  
「園治老」太夫

文政十二年十一月定

役人 中老

【木箱②】

(箱蓋表墨書)

「佐牙神社什物

御装束箱

此盃諸事酒振舞ニ用へし看も

(箱身側面墨書)  
「文政十二年  
己丑十一月

一

〔貼紙〕「ナ」改メ神前幕入一

〔箱蓋裏墨書〕

〔蓋表墨書〕  
佐牙神社

〔神酒德利箱〕  
昭和五庚午年 寄附者 小泉嘉一郎

〔異筆〕「一祭神 佐牙ノ彌豆男ノ神 一練立精好黃袍正服

佐牙ノ彌豆女神」

一袖紅生羽二重

身紅晒  
出来合

壹

一表地暑寒平裏キヤリコ差抜

單

壹

一笏

壹

一朱棲折袋共本式仕立傘

壹

一紅本金襯四ツ房付祝詞袋

壹

一河内木綿仕立上下白丁

壹

一烏帽子

壹

〔異筆〕

「一蛙又ノふくろ鳥は男根を表現し、蛙又の花は女根を現す

明治三十四年十月調之

〔箱身内底墨書〕

〔明治三十四年十月  
佐牙神社什物〕

〔木箱③〕

〔箱④〕〔蓋ブリキ製、箱身厚紙製〕  
〔蓋表墨書〕  
〔昭和參年拾貳月〕

冠箱

山本座中

〔箱身外底 印刷〕

〔天理教序御用達〕

有職御装束司

富森誠志商会

奈良県丹波市町三島  
振替大阪六三七〇番